

まだまだやります。 「息の長い支援」は神戸から

阪神淡路大震災で被災された方を、神戸市内の復興住宅にお訪ねし、震災のことや今お困りのことなどの「お話し伺い」をする傾聴ボランティアです。

1回だけでも、初めてでも、お気軽に、ご一緒くださればうれしいです。



9月5日(土)・6日(日)、10月24日(土)・25日(日)、
12月5日(土) 午後2時～5時

集合場所・時間：垂水東口、いかなごのモニュメント前、午後1時20分

JR・山陽各線垂水駅東口(大阪・神戸寄り)山側すぐ、レバンテ垂水前の広場です。

路線バスで移動、ベルデ名谷(垂水区)をお訪ねします。

050-6863-1039 [電話] kobevolunteer@aol.jp [メール]

ご参加の際は、電話、メール、メッセージにて、予めご連絡くだされば幸いです。

2015年、年間テーマ：震災ボランティア、二十歳の原点。

阪神淡路大震災20年を控え、支援活動の世代交代や経験の継承が課題とされています。神戸・週末ボランティア新生では、震災の年からの活動を継承しつつ、若い世代が集まる中、原点と原則を忘れず、現状に甘んじることなく、常にフレッシュな視点と感性をもって臨もうと、年間テーマを掲げることにしました。



神戸・週末ボランティアは、2013年、新たな活動主体

「**神戸・週末ボランティア 新生**」のもと、
リフレッシュ・スタートしました。

不定期ながらも、毎回ニーズや課題に即したテーマを設定する
新たな形態で、阪神淡路大震災の被災者に寄り添い、
共に歩んでいきたいと思ひます。



新聞で紹介されています！ 産経新聞 神戸版 2010.11.28
若者にも被災者支援の輪 神戸市民グループ「週末ボランティア」

This is 神戸・週末ボランティア <http://kobevolunteer.web.fc2.com/> (純正サイト Yahoo! JAPAN登録)
[Facebook](#)・[Mixi](#)・[Google+](#)・[Twitter](#) - [welove_kobe](#)、もよろしく!

おかげさまで 仮設・復興住宅訪問通算600回！

神戸・週末ボランティア 新生が2014年3月30日に行った復興住宅訪問活動は、「週末ボランティア」(旧)が、阪神淡路大震災後、取り組みを始めて以来、通算600回目となりました。

阪神淡路大震災から早くも20年になりました。新たな活動主体のもとで、今だからこそ、これまでの被災地に根ざし、これまでの被災者に寄り添おうと、神戸市内の復興住宅に改めてお訪ねし、「お話し伺い」～傾聴ボランティアをさせていただいています。

おかげさまで、昨2014年3月30日には、旧グループでの仮設住宅訪問以来、通算600回目の訪問活動となりました。

今年も1月には、三宮・東遊園地の一角に灯る「希望の灯り」の分灯とともに、復興住宅にお訪ねし、その中で、今回伺う住宅にも引き続き伺ったのとあわせて、初めて長田区内の復興住宅への訪問を行い、桜の咲く頃まで続けました。リフレッシュ・スタート以来の訪問戸数も、重複なしの実数ベースで1500戸を超えました。



フレッシュなメンバーとともに、新たな取り組みにチャレンジし続けることで、役立ちと学びを広げ深めていくだけでなく、復興住宅にお住まいの被災者の方々の心や地域社会を、風通しのいいものにするという、私たちのボランティアならではのミッションを、さらなるものにしていければと思っています。

1回だけでも、初めてでも、お気軽に、ご一緒くださればうれしいです

☆新聞で紹介されています☆
産経新聞：「時間重ねて見える問題も」復興住宅訪問600回
神戸新聞：住民の悩み聞き続け
神戸・週末ボランティア
新生 「将来の一助に」復興住宅訪問、仲間募る
(2014.3.23神戸版)

産 経 新 聞 平成26年(2014年)3月23日 日曜日

復興住宅に住む女性から話を聞くボランティア団体主宰の原英樹さん(右)＝神戸市垂水区

阪神大震災の発生から20年目に入り、復興住宅の住民が抱える問題を尋ねようとする予定だ。神戸・週末ボランティア新生は、週末に不定期の市営住宅「ベルテ台」に復興住宅を訪ね歩き、ホステルを訪問し、入居する高齢者から話を聞いて歩いた。震災して問題の共有化を図って

復興住宅に住む女性から話を聞くボランティア団体主宰の原英樹さん(右)＝神戸市垂水区

阪神大震災の発生から20年目に入り、復興住宅の住民が抱える問題を尋ねようとする予定だ。神戸・週末ボランティア新生は、週末に不定期の市営住宅「ベルテ台」に復興住宅を訪ね歩き、ホステルを訪問し、入居する高齢者から話を聞いて歩いた。震災して問題の共有化を図って

復興住宅訪問600回へ

神戸のボランティア団体 HPで問題共有

阪神大震災当時の「不安」という根柢を受けた世代が引退を迎え、経済的に苦しみたり健康を損なったりして問題は山積しているという。メンバーは「この日、集合住宅内を次々と訪問し、入居者の女性(70)から「隣に誰が住んでいるかわからない」と話した。

ボランティアグループ「神戸・週末ボランティア新生」が、阪神・淡路大震災の災害公営復興住宅を訪ね、住民の抱える悩みや暮らしを募っている。

神戸・週末ボランティア新生 「将来の一助に」

住民の悩み聞き続け

グループは、東京都豊島区元高校教諭原英樹さん(48)が呼び掛けた。原さんは大阪府池田市出身で、震災後、仮設住宅や復興住宅を訪ねる神戸市の市民団体「週末ボランティア」に参加。昨年1月に「新生」を立ち上げた。これまで70代の女性は「表札がない部屋もあり、隣の部屋に誰が住んでいるかわからない」と不安を打ち明けた。須磨区の自宅が全壊した別の男性(71)は病気で車いす生活。「ベッドに座るのもつらい」と語った。

復興住宅訪問、仲間募る



ベルテ台で住民からの悩みを聞く原英樹さん＝垂水区安谷町

フェイスブックで知り、活動に参加した垂水区の森栗幸代さん(40)は「高齢になってから新しい人間関係をつくるのは難しいと思う」とコミュニケーションの課題を指摘。原さんは「復興住宅が抱える問題は入居者ではない。将来の災害に備える一助にもしたい」と話している。今月23、29、30日にも行う。ホームページは「神戸・週末ボランティア新生」で検索。

神戸・週末ボランティア 新生は、宗教や政党など全く関係のない民間のボランティアです。寄付や署名の要請、投票依頼、販売行為などは一切行いませんので、ご安心ください。